

IES環境問題通信（プリントを活用した国際理解教育）
『思いやりの心と笑顔の地—アチェ（インドネシア）～生活・文化と被災体験～』

岩手県立宮古高等学校 小笠原 潤

1 はじめに

本校では、多くの教科で国際理解や環境教育について触れているが、進度を考えると断片的にならざるをえない。また、「総合的な学習の時間」は、進路研究が中心に実施され、部活動や委員会活動でもそのような視点では活動していない。そのような中、まとまった情報や考える機会を提供できる方法として5年前から『環境問題通信』を活用している。

本年度は、昨年12月にJICA東北主催の2012年度教師海外研修でインドネシアのアチェ州に行ったときの研修内容を中心にまとめた。2004年のインド洋大津波で甚大な被害を受けたアチェの被災時の状況や復興の現状・未来に向けての活動等を、2011年の東日本大震災で大津波による大きな被害を受けた岩手県沿岸の宮古地域に住む生徒達に紹介し、宮古地域の復旧・復興の一助とすることを目標として実施した。

2 方法

（1）インドネシアに関するアンケート

アチェに行くことが決まった後すぐに、私が授業を担当している生徒（1～3年生、計142人）にインドネシアに関するアンケートを実施した（20問＋知っていること・知りたいこと。例えば、「インドネシアの人口は？（4択）」「2004年の震災による死者・行方不明者の数は？（4択）」「一番信徒が多い宗教は？（5択）」、等々）。その結果をグラフ等にまとめ、12月上旬に『環境問題通信』として全校生徒（717人）にプリント4枚（表裏）を4日に分けて配布した（資料1参照）。

（2）インドネシア・アチェ州への海外研修

2012年12月下旬に海外研修に参加した。その際に特に留意したのは、生徒達がアチェを少しでも身近に感じ、自然や人々の生活・文化のイメージがある程度湧くようになる視点を大事にするということである。我々と同じ人間であるアチェの人々が、我々と同じように理不尽な大津波に遭い、我々と同じように克服していこうとする姿を伝えることが、とても意味があることだと考えた。

（3）スライド等（スライド173枚、動画4）を使った授業

2012年度については、2月の4期末考査後に「総合的な学習の時間」として2時間連続の時間（45分×2。2クラス80人×6回、計480人（1・2年生）対象）を確保することができた。情報量が多いので、授業内容に関する「確認プリント」を配布し、記入させながら授業を進めた（例えば、「（4）串焼きの名前は（**サテ**）といい、ニワトリや（**ヤギ**）などが使われている。また、麺は（**ミー**）、ご飯は（**ナシ**）、焼くは（**ゴレン**）という。」（**太字**は答え）、等々、（1）～（20）問。）。その中には、前述の料理以外に、「多様性の国インドネシア、宗教」や「通貨、衣類、果物・野菜、飲み物、交通、魚市場、トイレ、住居、テレビ番組、学校、動物、植物、等々」、アチェの人々の生活・文化や自然環境などについて具体的に紹介した。特に「イスラム教」については、アチェの人達の『心の拠り所』として非常に重要であると考え、多くの時間を

使った(資料2参照)。また、アチェにおける「大津波」に関する様々な情報に加えて、「大津波」に対する生徒の現在の想いを書いてもらう設問も用意した(資料3参照)。

(4) 『環境問題通信』を使ったプリント学習(振り返り学習)

『環境問題通信』の提示方法は、写真が多い場合はカラー印刷のプリントを各クラス(18クラス)に掲示する。2013年度については、2月に実施したスライド等を使った授業の内容の振り返り学習を行った(全部で12枚。資料2・3はその内の2枚)。その際、授業で使った「確認プリント」の解答に加え、関連する生徒の感想を掲載した(30人分)。また、「大津波について、どのように後世に伝えていけばよいか?」という設問に対する生徒の回答(11人分)を掲載した。

(5) メックスさんへの質問と回答

研修におけるアチェのコーディネーターであるメックスさん(英語、日本語に堪能。イスラム教徒)に、授業の際に生徒に書いてもらった質問(震災やイスラム教・教育・日本について、等、全部で80問)に回答して頂いたものを、『環境問題通信』の番外編4枚(表裏)として全校生徒に配布した(資料4参照)。

(6) 生徒への小論文の課題、および生徒への還元

夏季休業中に、私の専門科目である「生物」の授業を受けている生徒達(1~3年生、計342人)に対し、(4)の12枚分のプリントを白黒両面印刷して配布し、以下の3つの題名から1つを選んで600字以内で小論文を書くという課題を与えた(「異文化理解に必要なこと」「3.11から三年後の今、私ができること」「自然災害と国際協力」)。提出後、代表的な考え方(17人分)をまとめて『環境問題通信』の番外編3枚(表裏)として全校生徒に配布した(資料5参照)。

3 成果

- (1) アンケート結果**を、グラフ等を用いて分かりやすく全校生徒に提示することにより、インドネシアに対する興味・関心を高めることができた。
- (2) スライド等を使った授業**では、前半でアチェの人達の「思いやりの心と笑顔」や「前向きに進む力」に接したことが良い影響を与えたためか、後半の大津波に関して拒絶反応を示す生徒はいなく、前向きに考えるきっかけになった。
- (3) 『環境問題通信』を使ったプリント学習**により、スライド等を使った授業の内容を確かなものにする事ができた。特に、アチェと日本における防災や自然災害に対する考え方・死生観、等について考えを深めることができた。
- (4) メックスさんとの質問・回答**のやり取りにより、インドネシアやアチェにおける生活・文化等、および、イスラム教に関する理解を深めることができた。
- (5) 生徒への小論文の課題、および生徒への還元**により、防災意識の継承や異文化理解・支援活動等について生徒達自身の考えを深めることができた。

4 おわりに

本校の多くの生徒は進学を考えているため、高校時代に実際にさまざまな活動を行う時間を作ることは難しい状況である。しかし、世界にはどのような現状があり・問題があり・解決方法が考えられるのかについて、知り・考えることは可能である。そして、それが、生徒達の未来の活動につながり、自分自身の将来の夢や一生の仕事につながることを期待したい。

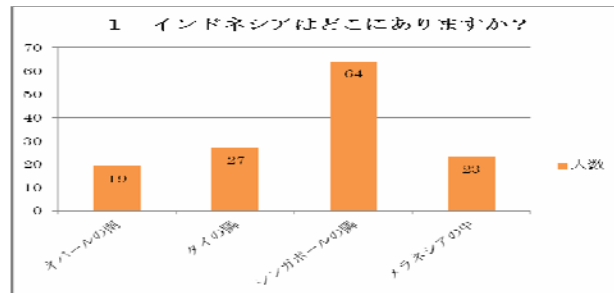
インドネシアに関するアンケート結果①

突然ですが、私(小笠原)は冬休み中にインドネシアに10日間ほど研修に行ってきます。今回、3年ABC組(文系)と2年DEF組(理系)の生物選択者、および1年E組の人達に、インドネシアに関するアンケートを採らせてもらいました。このアンケート結果により、みなさんのインドネシアに関するおおよその知識や興味を知ることができましたが、みなさんの参考にもなると思っていますので紹介します。(網掛けが正解。正解がない質問や、研修で調べる予定の質問もあり。)

1 インドネシアという国はどこにあるか知っていますか。

- ① ヒマラヤで有名なネパールの南隣
- ② トムヤンクンがおいしいタイの隣
- ③ シンガポールと海を隔てた隣
- ④ 太平洋のメラネシアの中にある国

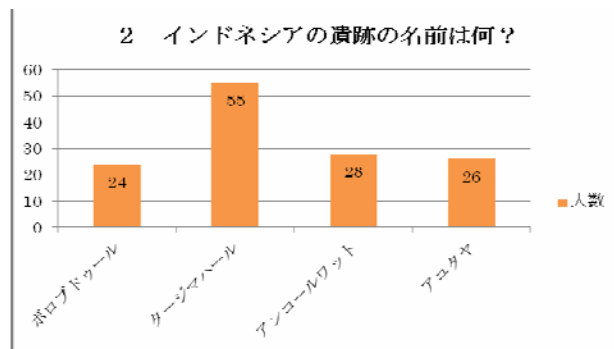
(正解者が多かったが、半分以上の人は不正解。①はインド。「ネシア」は古典ギリシア語の「諸島」の意味。地理選択者には有利だった?)



2 インドネシアにある遺跡はどれですか。

- ① ボロブドゥール
- ② タージマハール
- ③ アンコールワット
- ④ アユタヤ

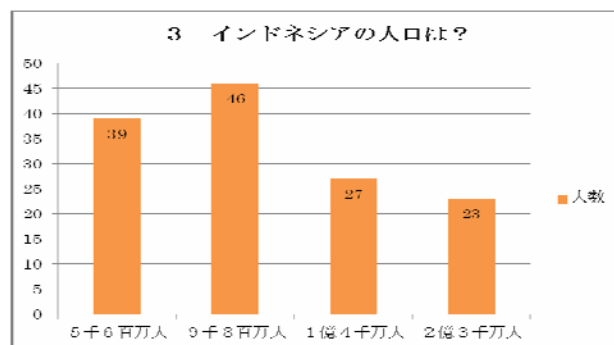
(正解は、仏教遺跡のボロブドゥールだが、正解者がかなり少ない。タージマハールはインド、アンコールワットはカンボジア、アユタヤはタイの遺跡。)



3 インドネシアの人口はどれくらいですか。

- ① 5千6百万人
- ② 9千8百万人
- ③ 1億4千万人
- ④ 2億3千万人

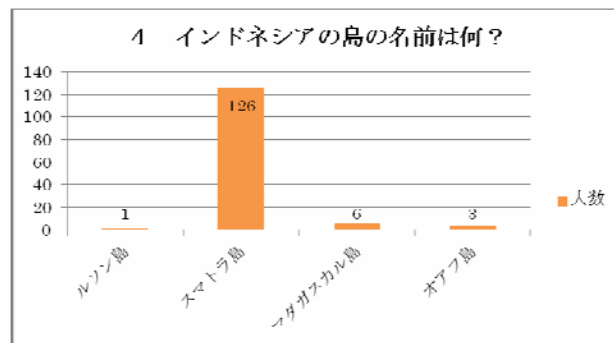
(正解は、日本の人口の2倍近い2億3千万人。正解者は一番少なく、日本の人口より少ない①や②を選んだ人が多かった。)



4 インドネシアに属する島はどれですか。

- ① ルソン島
- ② スマトラ島
- ③ マダガスカル島
- ④ オアフ島

(正解者が非常に多かった。ルソン島はフィリピン、オアフ島はハワイ。)



(→ 裏に続く)

思いやりの心と笑顔の地—アチェ ⑤

(→ イスラム教に関する「感想」の続きです。)

- ② 自分が思っていたイスラム教徒の人々のイメージとまったく異なり、気さくで優しくそうな方達が多いことが分かった。文化の違いで驚くことが多かったが、それ以上にイメージと違うインドネシアに驚いた。自分達と同じ経験をした人達がこんなに笑顔でいるので、私たちも復興できるのかなと思いました。
- ③ イスラム教は、ニュースとかで聞くとあまり良いイメージがなかったが、すごく良いイメージに変わった。アチェの人達みたいに震災のことも前向きに考えていきたいと思った。



マスジット(モスクは英語)



マスジットの中



バイクに乗るイスラム教徒の女性達

- ④ 私は異文化に興味があるので、とても興味深い内容でした。同じ「津波」という天災を経験した分、分かり合えることがたくさんありそうだと思います。「アッラーが起こしたことから」、「アッラーのおかげで平和が訪れた」と前向きに考えられるアチェの人々は強いと思いました。それだけ宗教への思いが強いんだと思いました。今までは正直イスラム教などの宗教に偏見があったけど、そんな風に心の拠り所として人々を支える部分も多くあり、良い所もたくさんあるんだと知りました。そんなアチェの人々から日本の私たちが学ぶことがたくさんあると感じました。
- ⑤ イスラム教の人たちは、思っていたよりもとても明るく、楽しそうだなと思いました。イスラム教の人たちは、悲しいことがあっても前向きに考えることができ、神の決めたことだと割り切ることができるのはすごいと思う。みんなの笑顔がすごく温かく印象的だった。



魚市場の笑顔の男性



メイさん



インド洋大津波の祈念式典(約5,000人が唱和)

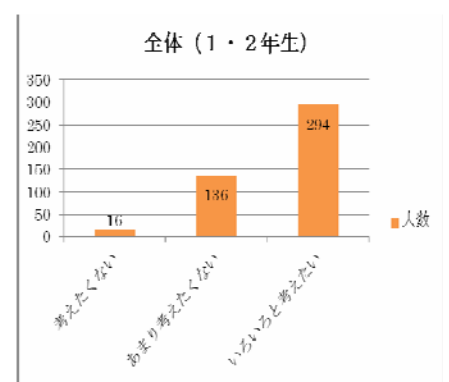
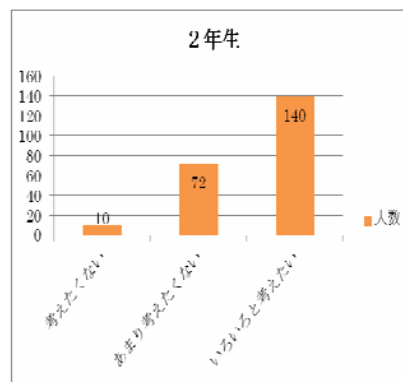
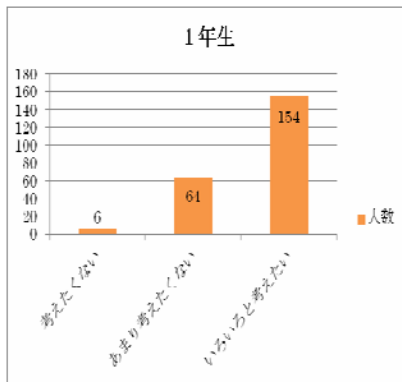
- ⑥ イスラム教の考え方は、他人を思いやる心がとても強く、お互いに助け合いながら生活をしている所に感動しました。私も、心から相手を思って行動する事を心がけたいと思います。
- ⑦ イスラム教に対して、実は私はあまり良い印象を持っていませんでしたが、思いやりの心を尊重して、周りの人を守り合っていく宗教なのだと知り、見方が変わりました。

思いやりの心と笑顔の地—アチェ ⑥

「確認プリント」の(15)の質問と、その結果をまとめた図です。

(15) 現在のあなたは、「東日本大震災」や「津波」・「防災」というような言葉について、どのような意識をもっていますか。次の中から1つを選び○をしてください。

- ① 考えたくない ② あまり考えたくない ③ いろいろと考えたい



- ・ 1・2年生(現2・3年生)全体で、「①考えたくない」が16名(3.6%)、「②あまり考えたくない」が136名(30.5%)、「③いろいろと考えたい」が294名(65.9%)でした。①と②の合計が34.1%となり、約1/3の生徒が、震災に対して大きなトラウマ(心理的に大きな打撃を受け、その影響が長く残るような体験)があるものと思われます。また、③と回答した中にも、「感想」を読んでもと何らかのトラウマがある生徒はかなりの多いと思われます。このような結果を授業実施前にある程度予想し、そのようなトラウマがある生徒達に対して今回の授業をどのように実施したら良いのか検討しました。そして、**アチェの人たちの元気や笑顔を伝えることが大切である**と判断し、授業を行いました。もちろん、まだ震災からの月日が短いので、「考えたくない」という気持ちは当たり前だと思います。でも、辛いときに、アチェの人たちの力強く前へ進もうとする姿を思い出ししてもらえれば、元気をもらえらると思います。

【感想】

- ① 日本との文化の違いや、日常のあまり知ることができないことを知れて良かった。津波に対しての考え方が日本と違うところがあって、前に進もうとしていてすごいと思った。少しずつ考えていけるようになりたいと思った。
- ② やっぱり、悲しいことがあっても立ち上がらないといけないんだなと思いました。もっと世界が一つとなって、いろんな経験を伝えられるぐらい仲が良くなれば良いなと思います。
- ③ 私は目をそむけずに向き合うことが大切だと思い、後世に伝えていこうと考えています。また、そうなってほしいと思います。
- ④ アチェの人々は前向きです。私は今でも余震があった日の夜、地震や津波の夢を見てつらいのです。身近な人にもし何かあったらと思うと、こわいのです。でも、少しずつ受け止めていきたいです。思いやりの心を持って、復興のためにできることをしたいです。
- ⑤ インドネシアのアチェでの出来事を通して、文化とか宗教の違いはあるけれど、思いやる気持ちや笑顔、共に生きていくための力は、人間、誰にでもあるものだと感じました。この先も辛かったりすることがたくさんあると思いますが、私たちはつながっていると信じて、これから生活していきたいです。
- ⑥ 震災後のアチェは前に向かっていくことを知ることができ良かった。アッラーに対する強い信仰こそが復興への一歩なんだなあ、と思った。おもいやりのうたを聞いて心にじーんときました。日本は、インドネシアで応援してくれている人達のためにも復興して、「笑顔」を届けたいと思った。

Q27. 信仰心が高いときと低いときの違いつて、どのようなものですか。

A27. When the faith (sinkou) is high, maybe at that time we are very *¹dilligent in doing the prayer or reading Quran a lot or giving a lot of our money to *²charity or etc. But there are times when one so occupy with their work and forget to pray or help the others or do not fast or else; this is when the faith is low.

*¹ dilligent : 勤勉な *² charity : 慈善行為

抄訳 (信仰心が高いのは、勤勉に礼拝しクルアーンを読み、たくさんのお金を施し(慈善行為)た時などです。信仰心が低いのは、仕事で忙しく礼拝を忘れたり、他の人を援助しなかったりする時です。)

Q28. イスラム教についてもっと詳しく教えてください。

A28. Sometime information on the news about Islam can be very misleading. Of course in each religion there is a fundamentalism group, also in Islam, but that group do not represent the real teaching of Islam. Islam is a peaceful religion who order its believer to live in harmony, even with a non moslem. Islam word itself means peace.

抄訳 (時として、イスラム教に関する情報は誤解されています。イスラム教の(テロを容認する)原理主義のグループは、本当の教えを表してはいません。イスラム教は、イスラム教ではない人々と協調する平和的な宗教です。「イスラム」という言葉自体が「平和」を意味します。)

③教育(学校)について

Q29. 義務教育はあるのですか?

A29. Yes there is.

Q30. 小学校はありますか。

A30. Yes many.

Q31. 大学はあるのですか。

A31. Yes many.

Q32. インドネシアの中高生は、放課後何をしているのですか。

A32. They play with friends, or go to 'juku'.

Q33. インドネシアの高校では、地域(自分の町のため)のためにどんな活動をしているのですか。

A33. Clean the neighborhood, *¹promote the education and local culture, do the *²fundraising for the needy, create a sports *³tournament,etc.

*¹ promote : 推進する *² fundraising for the needy : 貧しい人のために募金

*³ tournament : トーナメント

Q34. いじめ、体罰はありますか。

A34. Yes there are cases like that.

(裏に続く →)

『3. 11から三年目の今、私ができること①』**1年A組 Sさん**

現在、私達がすべき復興への手助けは、一番はまず「伝える」ことだと思う。アチェの地にある『津波博物館』や、『ノアの方舟』で助かったガヤさんの語り部としての活動のように、後世に残せる形で伝えていかななくてはならないと思う。私は中学3年生の時、近い将来に大地震や大津波が来ると言われている和歌山県に、被災地の学校の代表の一人として講話をしに行ったことがあるが、やはり私達が身をもって痛感した悲しみや辛さ、震災への備え方は、できるだけ広める必要があると思う。二番目は、「切り換える」ことだと思う。アチェの人々は、大災害を神様の恵みとして受け止め、プラス思考で前に進んでいる。「日常への感謝」や「たくさんの人との出会い」は、あの災害があったからこそ在るのである。命や大切なものもたくさん奪われたが、得たものも少なくはない。そして、三番目、「返す」ことにつなげることが必要なのだ。「今までの分」「これからの分」、私達が大災害を経験し、学んだこと、活かしたこと、失敗したことなど、全てを他の人の役に立つように使い、恩を返すのだ。

資料を読んで、文化は違っても「思いやり」や「助け合い」の精神は、どこにでも同じく存在していることを知った。文化や国境を越えた思いやりや助け合いの輪は、無限に広がると思う。そしてそれは今、私達がやらなくてははいけないし、私達が広げていくべきだと考える。

1年D組 Kさん

たくさんの人を命を奪った東日本大震災から速くも3年が過ぎ、被災した人や場所も少しずつ落ち着いてきたように感じられます。しかし、震災の爪痕が未だ残っている所もたくさんあるし、仮設住宅での暮らしを余儀なくされている人もたくさんいます。安定した仕事に就けていない人もいます。このように、まだまだ復興したとは言えない部分もたくさんある中で、今、私達がやるべきことは、あの震災をもう一度思い出し、向き合い、考えることだと思います。

私達は、この震災のことを語り継いでいかなければいけません。そのために、もう一度思い出す必要があると思います。3年という間で、私達は様々なことを忘れてしまったと思います。逆に、3年の間、震災のことがトラウマになり、頭から離れずにいた人もいます。津波で死にかけた人や、家族を失った人、家が被災した人たちは、あの日のことを思い出したくないと思っているかも知れません。でも、向き合わなければ何も変わりません。前にも進めません。きっと、その人の中の時間は止まったままになってしまうと思います。もちろん、辛いことを思い出すのは簡単ではないし、苦しいと思います。ゆっくりでもいいので、きちんと向き合う努力をしてみると、きっと何かが変わるはずです。

震災のことを忘れている人は思い出すために、トラウマになっている人は前に進むために、もう一度思い出し、向き合い、考えてみるのが大切だと思います。

3年D組 Oさん

東日本大震災から3年経とうとしている今、私にできることは、アチェの人たちのように前へ進んで生きることだと思う。悲しいことや辛いことをいつまでも引きずれば、心から笑える日は来ないと思うからだ。アチェと同じような震災を受けた日本は、まだまだ復興することに後ろ向きだと感じる。確かに、地震や津波で失ったものは大きいし、亡くなった人の命は取り戻すことはできない。思い出の品や家を失った人も大勢いて、それは、大きな傷になって被災者の心に残っているだろう。しかし、日本と同じような被害を受けたアチェでは、震災を「アチャーが決めたこと」と前向きにとらえている。その一方、原因と結果の因果関係を防災に役立てようとする気持ちは、日本より小さいようだ。しかし、復興する上で最初に大事なものは、前向きに生きようとする心を持つことだと思う。その点で、アチェの人たちは、津波の博物館を作ったり後世に伝えようと前向きに生きている。日本は、アチェから学ぶことが多い。

これからの日本の将来を背負う私たちは、どんな辛いことがあっても笑顔で生きていくことが必要だと思う。アチェの人たちのように、思いやりの心を持ち、被災地のボランティアなどの参加が増えれば、復興に近づくとと思う。高校生の私たちができることは限られているが、笑顔で生きていくことで、少しでも復興の力になればと思う。